

# 薬剤師、地域で活躍

調剤薬局を展開するファルメディコ（大阪市）が、特別養護老人ホームや有料老人ホームなどの入居者に対して行う訪問服薬サービスを拡大している。地域密着の利点を活かし、徹底した服薬管理を実践。他社との差別化を図っている。狭間研至社長に同社の取り組み、地域医療における薬剤師の役割を聞いた。



ファルメディコ  
狭間研至社長

## 服薬指導・配薬支援実践 医療・介護職と情報連携

医療・介護  
トレンド

に開く利点は。

「施設などに薬剤師が入り込み、服薬管理を行うことで、施設スタッフの業務の軽減に役立つ。看護師や介護スタッフはそれぞれの業務に専念できるようにになる。ただしこれはどの薬局でも行っていること。薬の効能や副作用をよく見極めるなど

在宅患者数の推移は、

「大阪府、兵庫県で調剤専門のハザマ薬局を6店舗展開。特養入居者に対する訪問服薬サービスが主体だったが、近年は民間会社が運営する有料老人ホームや在宅の利用者が増加。現在施設系では特養14カ所930人、居宅系では有料老人ホーム3カ所150人を含めた在宅患者300人の服薬管理を手掛けている」

「有料老人ホームなどから依頼が増えた要因は、

「薬剤師が居宅療養管理指導を他の医療職、介護職とチームで実践できるところになった。有料老人ホーム側の入居者の容体が悪化し入院が増えたことも要因。医師や歯科医とともに薬剤師が絡む医歯薬連携を行うことで、緊急入院が減り入居率向上に寄与する」

「薬剤師が訪問の際に行う業務は、

「まずは配薬業務。患者一人ひとりに薬の服用方法や注意点を指導す

る。一包化や薬カレンダー

などを活用した環境を整えることも重要。また薬剤師が薬学的な観点から患者の日々のバイタルサインをチェックしている。処方された薬の効果を確かめるとともに、体調の変化を読み取り担当医師に報告するの役



▲訪問服薬の様子

徹底した服薬管理を行う

ことが、他の大手薬局チェーンなどと差別化を図るのに有効。薬の影響でパーキンソン症状が進行したり、ドライマウスと

一般社団法人在宅療養支援薬局研究会は7月15日・16日の2日間、大阪で第5回シンポジウムを開催した。テーマは「薬剤師と在宅医療―総論から各論へ」。薬剤師、医療関係者ら300名以上が参加した。狭間研至理事長は「地域医療に求められる地域医療イノベーション」のテーマで講演。ど

### 在宅療養支援薬局研究会 「薬剤師と在宅医療」 大阪でシンポジウム開催

くろしお薬局副社長の川添哲嗣氏が緩和ケア・認知症ケアについて、それぞれ特別講演。菅野氏は薬物動態値の見方・使い方、川添氏はトータルペインや認知症の病態などについて解説した。2日目は「薬剤師の新しい職能と法的意義」、「6年制薬学教育と在宅医療支援」のシンポジウムなどを開催した。同会は「日本在宅薬学会」に名称変更される予定。

「薬局3・0」という

「薬剤師が目指すのは、地域での薬物治療を如何に賢く行うかということ。そのためには多職種連携

「薬剤師がバイタルサインやフィジカルアセスメントを習得することが、共同薬物治療管理の実現に欠かせない。その

「薬剤師がバイタルサインやフィジカルアセスメントを習得することが、共同薬物治療管理の実現に欠かせない。その

#### 会社概要

設立 平成10年9月(昭和51年創業)  
従業員 67名(うち薬剤師25名)(平成24年3月現在)  
店舗 6店舗(大阪府内に5店、兵庫県内に1店。9月に新店舗を開業予定)

狭間社長は現在でも医師として、非常勤の立場で在宅患者約80人、外来患者30~40人を定期的に診療している。